

クリニックレター 2019年11月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

EBM と NBM

現代における医療では、常に「エビデンス」が求められています。エビデンスとは「根拠」「証拠」という意味で、エビデンスに基づいた医療の事を「EBM: Evidence Based Medicine」と呼んでいます。世界的にも、ランダム化比較試験「Randomized Controlled Trial: RCT」などの質の高い比較試験を経た薬剤のみが承認される傾向にあるというように、日に日に、エビデンスの構築がなされているのです。

一方、我々が用いている医療用漢方製剤（いわゆる漢方エキス剤）は、1970年代に国内で薬価収載され、健康保険を用いた医療の場で用いられるようになりましたが、その時は、RCTなどの比較試験は全く用いられず、何千年もの使用経験があるから、という超法規的な理由での収載でした。その背景には、1960年代に、スモン病*やサリドマイド**などのいわゆる薬害が起り、「新しい薬」に対する疑問・恐れ、などの風潮があったこと、当時の武見太郎日本医師会長が、漢方に対して理解を示したこと、などがありますが、明治以降、西洋医学一辺倒であった日本の医療に新しい風を吹き込んだものであったことは間違いありません。

それでは、漢方には科学的エビデンスはないのでしょうか？？？

もちろんそんなことはありません。「大建中湯」は、術後患者の腸閉塞の予防薬として外科領域では欠かせない薬になっていますし、「芍薬甘草湯」もこむら返りに効くことはほとんどの医師が知っていることです。また、癌の化学療法や放射線治療の際の副作用の軽減に十全大補湯が役立つことも様々な論文で証明されています。また、例えば、老年期の疾患や症状に関しても、下記のような、さまざまなエビデンスが示されています。（スペースの関係上、箇条書きで一部をご紹介します）

A) 半夏厚朴湯（ハゲコハクケリ）・・・もともとは、梅核気（ハゲコハク）：梅の種が咽喉に引っかかたような感じ）あるいは咽中炙癭（インチウヤン）：のどに焼き肉の切れ端が引っ掛かったような感じ）といういわゆる咽喉頭神経症や、慢性胃炎に用いられる処方ですが、高齢者の嚥下能を改善し、誤嚥性肺炎の予防効果が証明されています。

B) 八味地黄丸（ハチミツカクワン）・・・代表的な補腎薬で、夜間頻尿や足腰のだるさ、冷えなどに用いられませんが、認知症患者の記憶能を改善する効果が証明されています。

C) 抑肝散（ヨカガシ）・・・イライラ感や不眠などに用いられますが、認知症の周辺症状（幻覚、暴言、介護への抵抗、焦燥、多弁、せん妄など）を改善するという報告が多数あり今では認知症治療薬として欠かせないものになっています。



D) 牛車腎気丸（ゴシャジンカクワン）・・・まだ、動物実験レベルではありますが、（裏へ

サルコペニア（加齢による骨格筋減少症）に罹患したマウスの筋肉量を有意に増加させる、という実験結果があります。

E) 人參養榮湯（ニンジンヨウエイリョウ）・・・高麗人參を主薬とした処方、全身倦怠の改善に用いられますが、高齢者のフレイル（サルコペニアやうつ、栄養不良などによる虚弱）に対する改善効果が近年注目され、さまざまな論文が提出されています。

しかし（！）、「エビデンスがある」ということを金科玉条の如く主張し、「エビデンスがないから」という理由でその治療法を否定してよいのでしょうか。（漢方嫌いの医師達でそのような言い方をする人たちも多いです）

エビデンスというのは、その治療法が絶対である、ということとは全く異なります。一定の対象患者に対して、何もしないよりは確実に効果がある、という意味であって、例えば、6-7割の患者には効果が見られても、残りの3-4割には効かない、ということでもあるのです。患者さんにはそれぞれの背景があります。それは、親から受け継いだ体質であったり、考え方であったり、生まれてからこれまでの様々な出来事であったり、家族であったりと様々ですが、これらを見据えたとあって、一人一人に合った治療法を選択していく必要があります。これはNBM(Narrative Based Medicine)と呼ばれ、「物語と対話の医療」とも訳されています。漢方も、一人一人の背景をきちんと見据えながらオーダーメイドの治療法を作り上げる、という点では、NBMによる治療の代表格とも言えます。エビデンス一辺倒の似非近代医学から、エビデンスを踏まえたうえで、EBMの隙間をNBMで補填していくような、真の近未来医学が求められているのではないのでしょうか。

（参考文献）高齢者のための漢方治療 岩崎鋼・高山真著 他

* スモン病（亜急性視神経脊髄末梢神経炎）：キノホルムという整腸剤によって起こった薬物中毒

**サリドマイド：1950年代後半に発売された睡眠薬で、妊婦のつわりにも用いられたが、催奇形性が多数報告され、1960年代初頭に発売禁止となった。

インフルエンザ発生の報告が入ってきています。一部では、すでに学級閉鎖などの情報もありますので、早めのインフルエンザワクチン予防接種をお勧めします。その他、当院では、肺炎球菌ワクチン（原則65歳以上）、带状疱疹ワクチン、子宮頸癌ワクチンなどの予防接種をおこなっています。

土曜日の外来交代、増設のお知らせ

11月より第2土曜日に心療内科外来を増設します。 新任：大林美由樹医師
第4土曜日の婦人科担当医師が交代しました。 新任：浅井淑子医師

休診のお知らせ

12月29日（日）～翌1月5日（日）までの間は休診とさせていただきます。
11月14日（木）武内医師、12月7日（土）田川医師は休診です。

お詫び

例年、年末にお配りさせていただいていたカレンダーですが、諸事情により今年はお用意することが叶いませんでした。楽しみにお待ちいただいた方には大変申し訳ございませんが、あしからずご了承ください。

クリニックレターのバックナンバーはクリニックホームページでご覧いただけます。